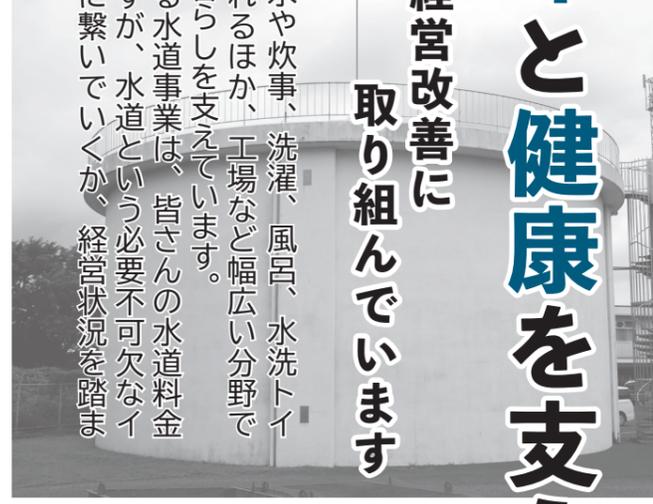


市民の命と健康を支える「水道」



水道事業の経営改善に取り組んでいます

水道は、私たちの飲み水や炊事、洗濯、風呂、水洗トイレなどの日常生活で使われるほか、工場など幅広い分野で使われており、私たちの暮らしを支えています。公営企業で運営している水道事業は、皆さんの水道料金で経営が成り立っていますが、水道という必要不可欠なインフラをどのように将来に繋いでいくか、経営状況を踏まえて考えてみましょう。



現在の経営状況は？

人口減により、給水収益は減少し、経営状況は厳しくなっています。市内の広範囲におよぶ水道管や浄水場の維持管理費に加え、老朽化が進む水道施設の更新にも多額の費用を要します。経費の削減に取り組んでいますが、運営上資金を借り入れざるを得ない状況であり、借入金残高は増加傾向にあります。

1m³の水を届けるのに必要な原価は？

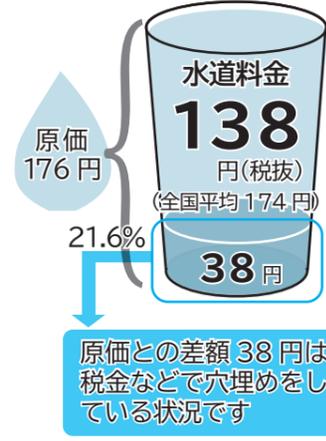
水源地で取水してから各家庭の蛇口まで水道水を届ける費用は、1m³あたり176円（給水原価）となっています。給水区域が広範囲で給水人口も少ないため、非効率な経営環境にあり、全国平均原価より高くなっています。



※1m³は2ℓのペットボトル500本分の量です

1m³の水に水道料金を平均でいくら払っているの？

1m³あたり176円の水道水を138円（供給単価）で利用者に提供しています。全国平均より低く、水道料金のみで38円不足が生じますので、主に一般会計から補助してもらうことで水道事業の経営が成り立っています。



原価との差額38円は税金などで穴埋めをしている状況です

4 収入の確保

水道料金は、水量によって金額が変動するため、一律に他市と比較することは困難ですが、1カ月で20m³使用した場合、全国平均より801円低い料金となっています。水道事業の継続には、給水収益の確保は欠かせません。合併後は、平成20年に料金単価を統一したのみであり、水道料金改定に向けて、料金のあり方を検討しています。

2 事業・施設の統廃合

平成29年度末に各地区に7つあった水道事業を依山簡易水道を除き、長門上水道事業へ経営統合しました。これにより、地区間で水を融通しあう連絡管の整備が可能となり、水源や浄水場の適正配置を進めています。また、水道施設の維持管理体制の見直しなど経営改善を図っています。

3 危機管理体制の強化

職員数が減少する中、水道・下水道事業を一体的に運営するため、上下水道局を設立し体制を強化しました。また、いざというときに備え、新規給水車の導入や資機材の整備など、危機管理体制の強化に努めています。



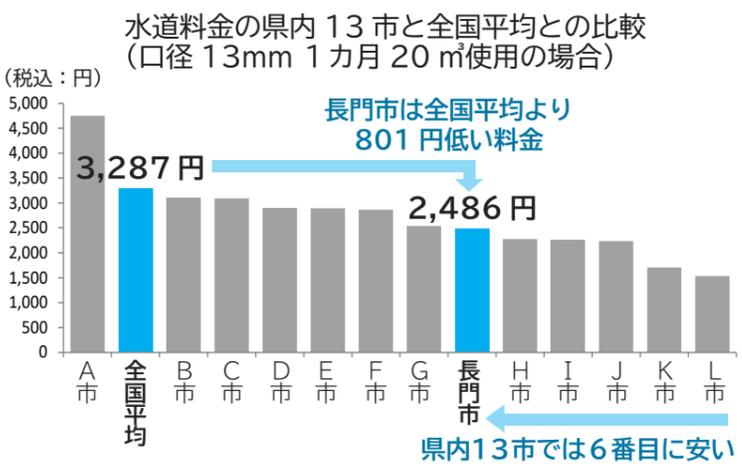
▲湯本浄水場は5カ年かけて更新整備を行う



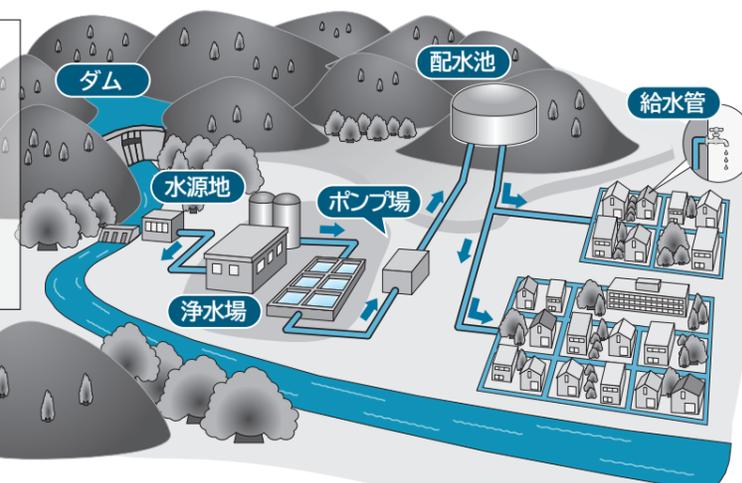
▲老朽化した水道管を新しいものに取り替える更新工事



▲今年6月に導入した給水車。断水時の応急給水のほか被災地への派遣にも利用される



- ### 水道水が家庭に届くまで
- 1 川などの水源で取水した水を浄水場へ送る
 - 2 浄水場の沈殿池やろ過機で水をきれいにする
 - 3 薬品を注入して水道水が出来上がり
 - 4 水をポンプで配水池へ送る
 - 5 配水管と各家庭の給水管を通して蛇口まで届く



水道事業経営には、施設の減価償却費や維持管理費、ポンプの動力費、薬品費、人件費に加え、水道管や浄水場といった施設の整備・更新費など多額の経費がかかります。

水道事業のこれから

合併から16年が経過し、水道事業の経営環境は大きく変化しています。現状のままでは事業の継続が困難となることから予想されています。

そのため、上下水道局では経営健全化の取組として、今後10年間の経営の基本計画となる「経営戦略」を3月に策定し、経営改善に取り組んでいます。経営戦略では、老朽化する水道施設の更新計画や、不足する財源、本来あるべき水道料金水準など、経営改善に向けた方向性が示されています。市民の皆様にも、今後の取組について、ご理解ご協力をお願いします。

- ### 「経営戦略」の3つの目標
- 安全安心**
市民の命と健康を支える
 - 持続**
いつまでも将来へと受け継がれる
 - 強靱**
災害時にもいつも命の水を供給する

「経営戦略」と概要説明資料は長門市ホームページに掲載しています。「長門市水道事業経営戦略」で検索